

# 待ち焦がれた飛龍・姫龍

## 今、その姿を現す

2019年夏、借しまれながらファイナルを迎えた夏宵まつり。  
多くの人々が新しいまつりに期待を寄せていたが、新型コロナウイルス感染症の猛威が世界を襲い、開催することが出来なかったこの2年間。

今年は何んとしても……

町民たちの熱い思いが形となり、8月11日、『第1回しょうない氣龍祭』の開祭を告げるあまるめ飛龍太鼓が鳴り響きました。

庄内町には、古くから「飛龍伝説」（深川集落、「龍神信仰」（立谷沢地域）という龍にまつわる伝説が存在しました。  
しょうない氣龍祭は、2つの伝説に共通する「龍」をコンセプトに、五穀豊穡と町の発展を願う新たなまつりです。

### ▼飛龍伝説

深川集落にある「金沼」には、かつて嵐を起す龍が住んでおり、農作物を荒らしていました。その龍を鎮めるため祈ったところ、龍は浄化され、今ではこの地の安寧と豊かな田園を守る龍になったとの伝説があります。

### ▼龍神信仰

立谷沢川はかつて暴れ川として恐れられ、たびたび水害をもたらしてきました。そのため、立谷沢川流域には水を司る神とされる龍神を信仰する風習があり、今日に至るまで各集落に龍神碑が存在します。

7/23

演劇  
「龍の住むまち」

「しょうない氣龍祭」のプレイベントとして、演劇「龍の住むまち」が響ホールで上演されました。

まつりを盛り上げたいと劇団響（高田康子代表）がオリジナル劇を制作。舞台には劇団のメンバー



だけでなく、立川小学校の児童や立川・余目両中学校の生徒、西野神楽保存会、あまるめ飛龍太鼓のメンバーもゲスト出演し、花を添えています。

しほらおの

# 氣龍祭

オープニングでは、2体の龍の完全な姿がお披露目され、入魂の儀式が行われました。事前に募集した地元有志の小中高生による龍担ぎ体験も行われ、子どもたちは「せいやー」の掛け声に合わせて元気づく龍を引っ張ったり担いだりしていました。

ほかにも、庄内各地のダンスチームによる軽快なパフォーマンスや、町内の商工業者やキッチンカーによる屋台村など、盛りだくさんの催しでまじりの参加者を楽しませていました。

ファイナーでは、光と音の演出やあまると飛龍太鼓の演奏に合わせ、2体の龍の駆け抜けが披露され、治道から観覧する人々はその庄容の姿に感嘆の声を上げていました。

新たな町のシンボルとして誕生した2体の龍は、地域みんなの想いを乗せてこれからも舞い続けることになりました。

## 雄大豪壮

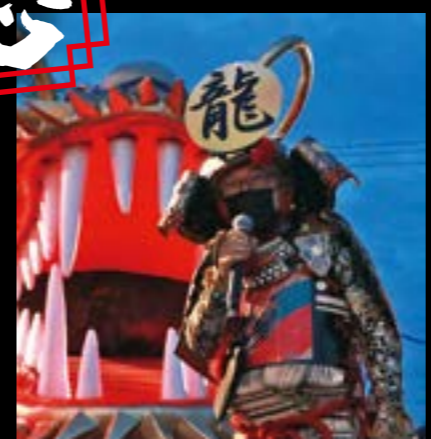
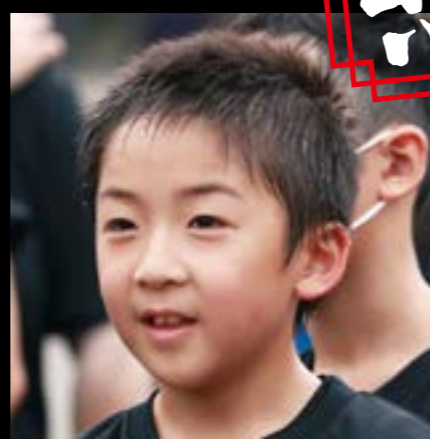
### 舞



### 伝統継承



### 想



### 麗

